

資料 4

現実をステージに「教科を統合」 —5年間を見通した段階的[プロジェクト学習] 実践モデル

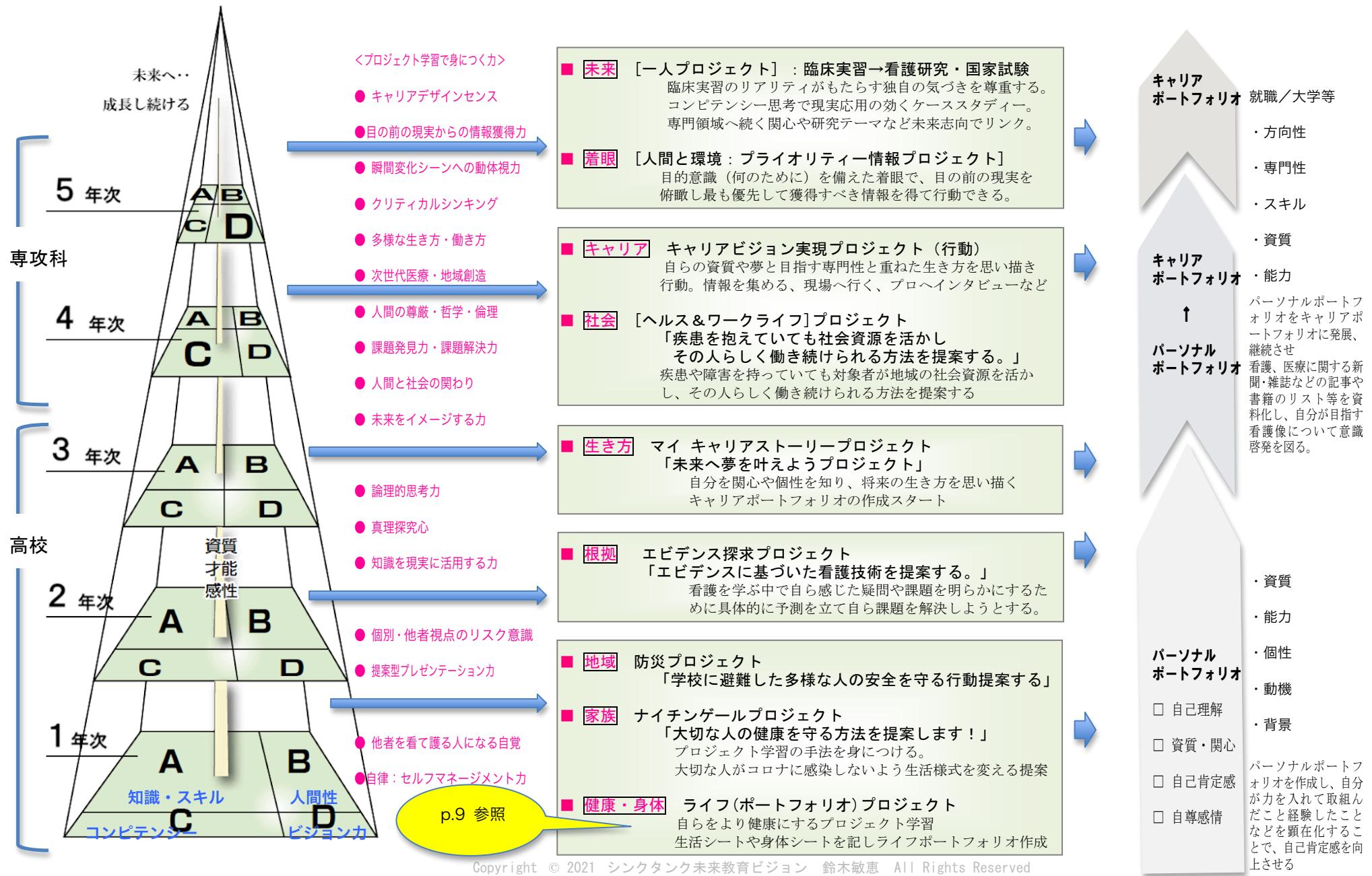
2021年3月29日

鈴木敏恵

シンクタンク未来教育ビジョン

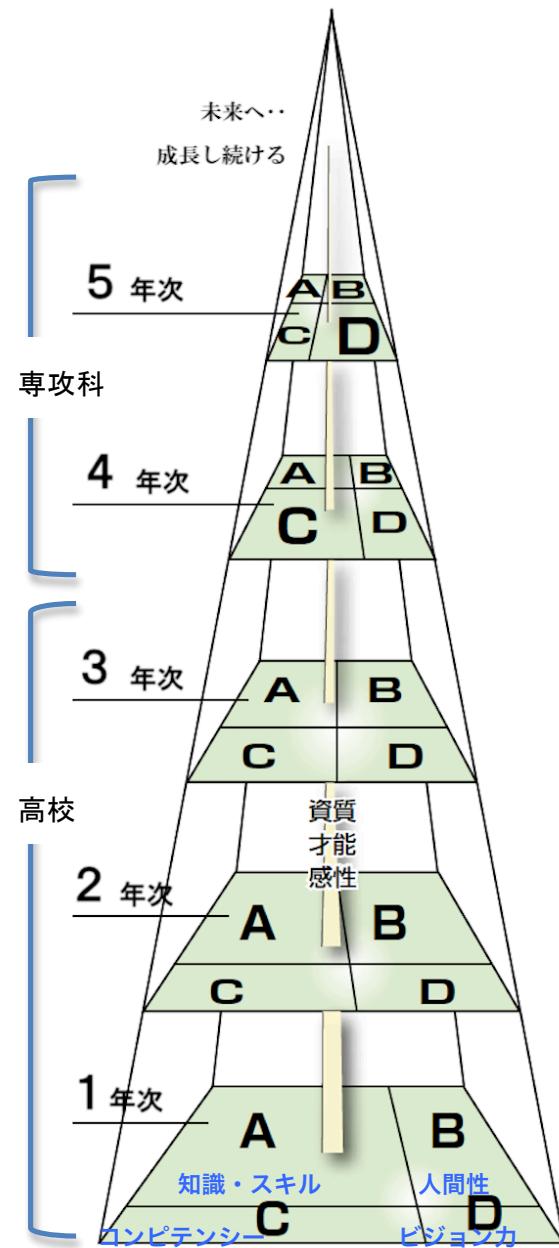
現実をステージに「教科を統合」—— 5年間を見通した段階的[プロジェクト学習] 実践モデル

実践：埼玉県立常盤高等学校（文部科学省「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）」事業平成26-30年度研究指定校）ほか / 構想・指導：鈴木敏恵



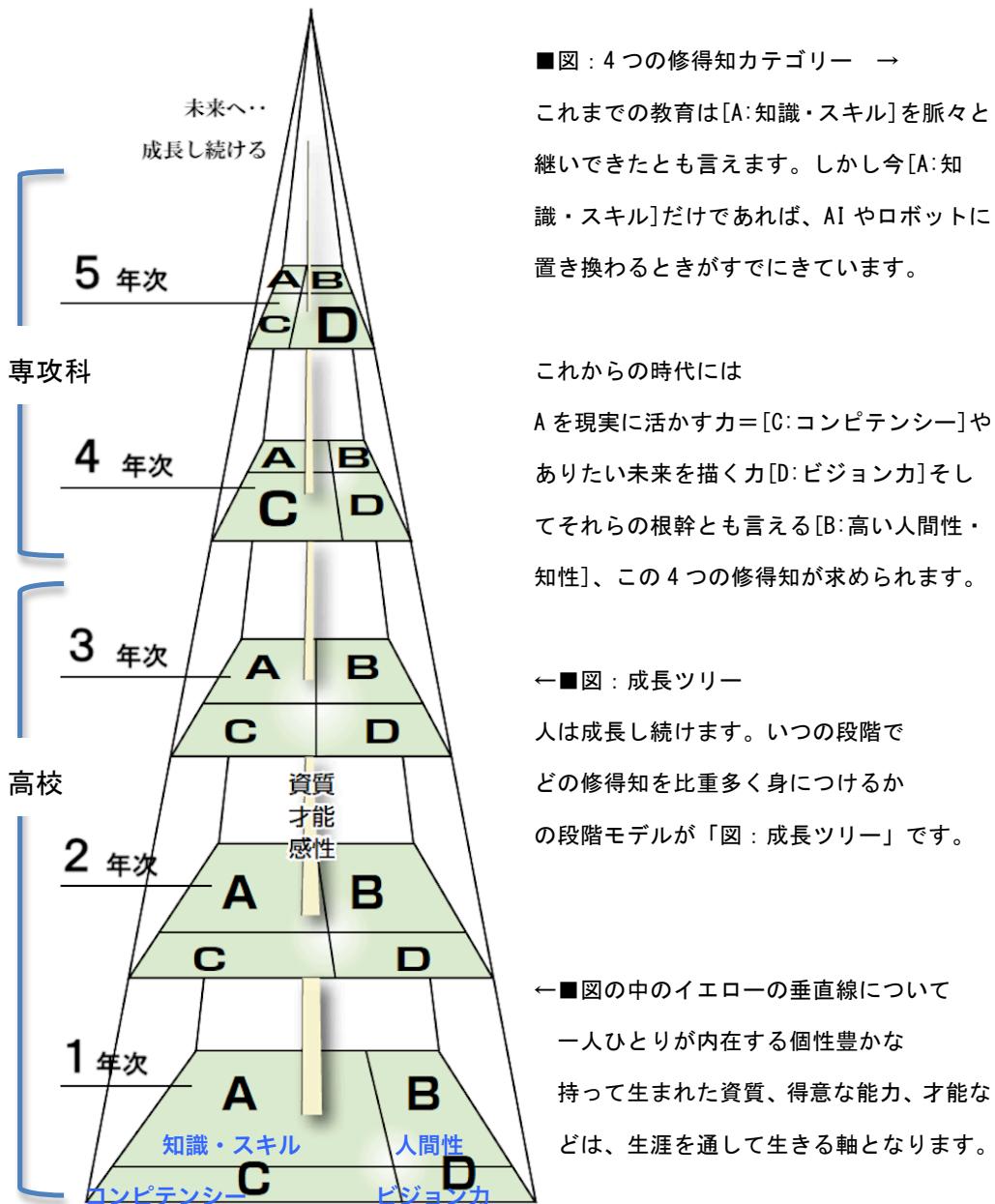
現実をステージに「教科を統合」—— 5年間を見通した段階的[プロジェクト学習] 実践モデル

実践：埼玉県立常盤高等学校（文部科学省「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）」事業平成26-30年度研究指定校）ほか / 構想・指導：鈴木敏恵



現実をステージに「教科を統合」—— 5年間を見通した段階的[プロジェクト学習] 実践モデル

実践：埼玉県立常盤高等学校（文部科学省「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）」事業平成26-30年度研究指定校）ほか / 構想・指導：鈴木敏恵



■図：4つの修得知カテゴリー →

これまでの教育は[A:知識・スキル]を脈々と継いできたとも言えます。しかし今[A:知識・スキル]だけであれば、AIやロボットに置き換わるときがすでにきています。

これからの時代にはAを現実に活かす力=[C:コンピテンシー]やありたい未来を描く力[D:ビジョン力]そしてそれらの根幹とも言える[B:高い人間性・知性]、この4つの修得知が求められます。

←■図：成長ツリー

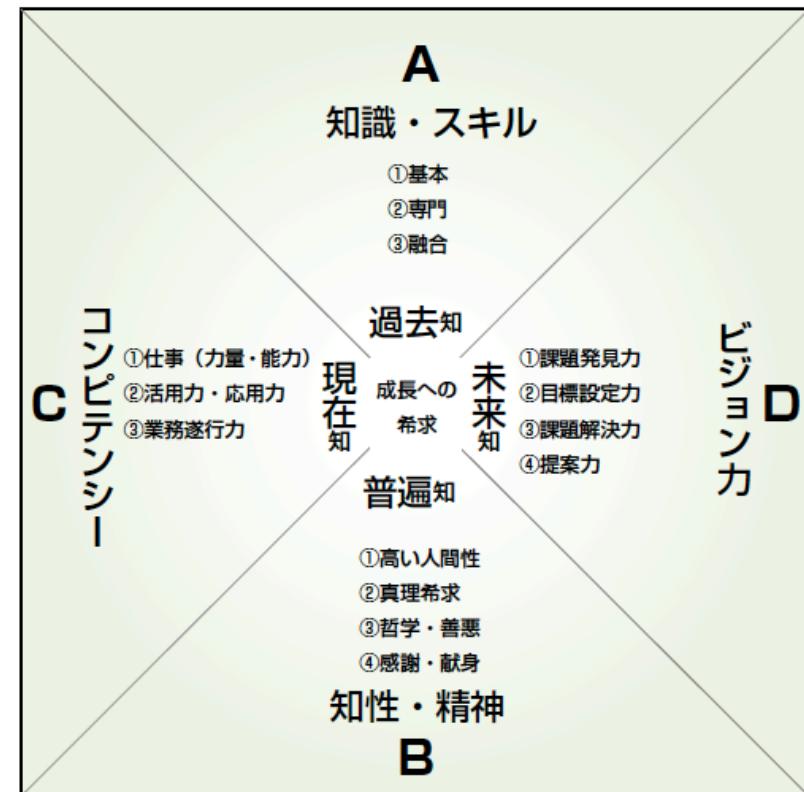
人は成長し続けます。いつの段階でどの修得知を比重多く身につけるかの段階モデルが「図：成長ツリー」です。

←■図の中のイエローの垂直線について

一人ひとりが内在する個性豊かな持つて生まれた資質、得意な能力、才能などは、生涯を通して生きる軸となります。

次世代教育—4つの修得知モデル

図 1-2



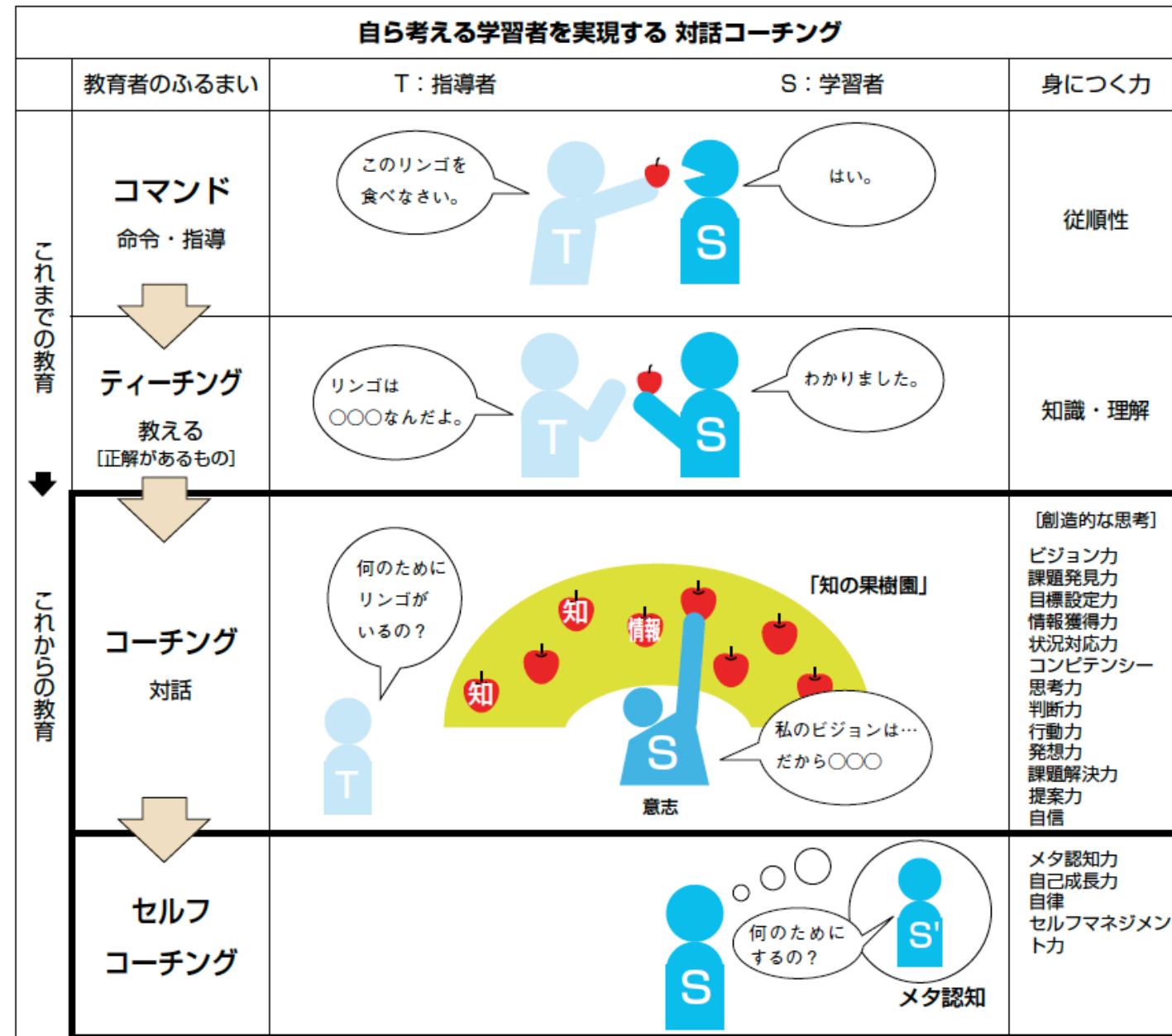
出典「AI時代の教育と評価」 教育出版 著者：鈴木敏恵

現実をステージに「教科を統合」—— 5年間を見通した段階的[プロジェクト学習] 実践モデル 資料編

実践：埼玉県立常盤高等学校（文部科学省「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）」事業平成26~30年度研究指定校）ほか / 構想・指導：鈴木敏恵

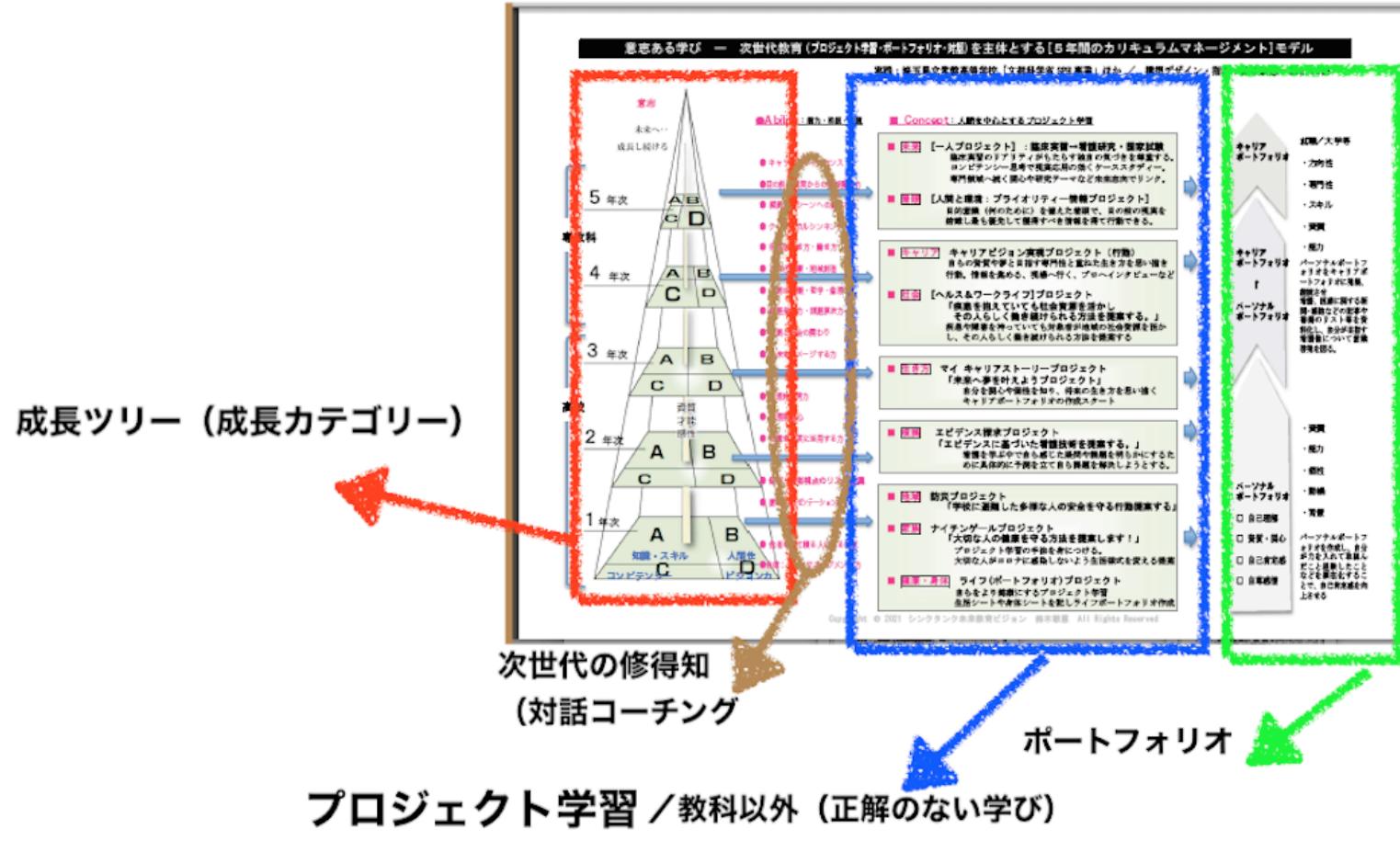
AI時代—教育の変化

図 3-8



現実をステージに「教科を統合」— 5年間を見通した段階的[プロジェクト学習] 実践モデル ガイド

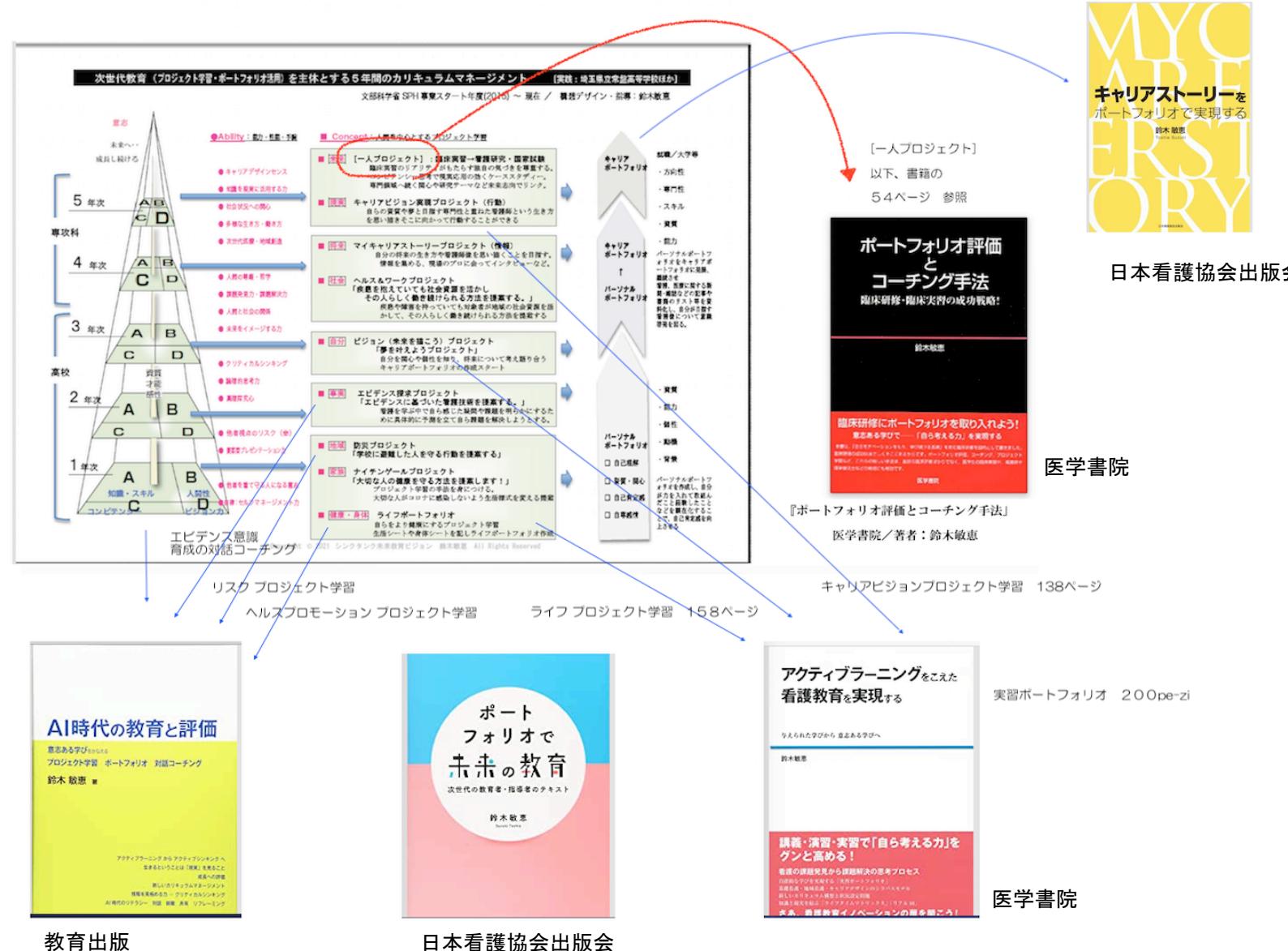
実践：埼玉県立常盤高等学校〔文部科学省「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）」事業平成26~30年度研究指定校〕ほか／構想・指導：鈴木敏恵



現実をステージに「教科を統合」—— 5年間を見通した段階的[プロジェクト学習] 実践モデル 資料編

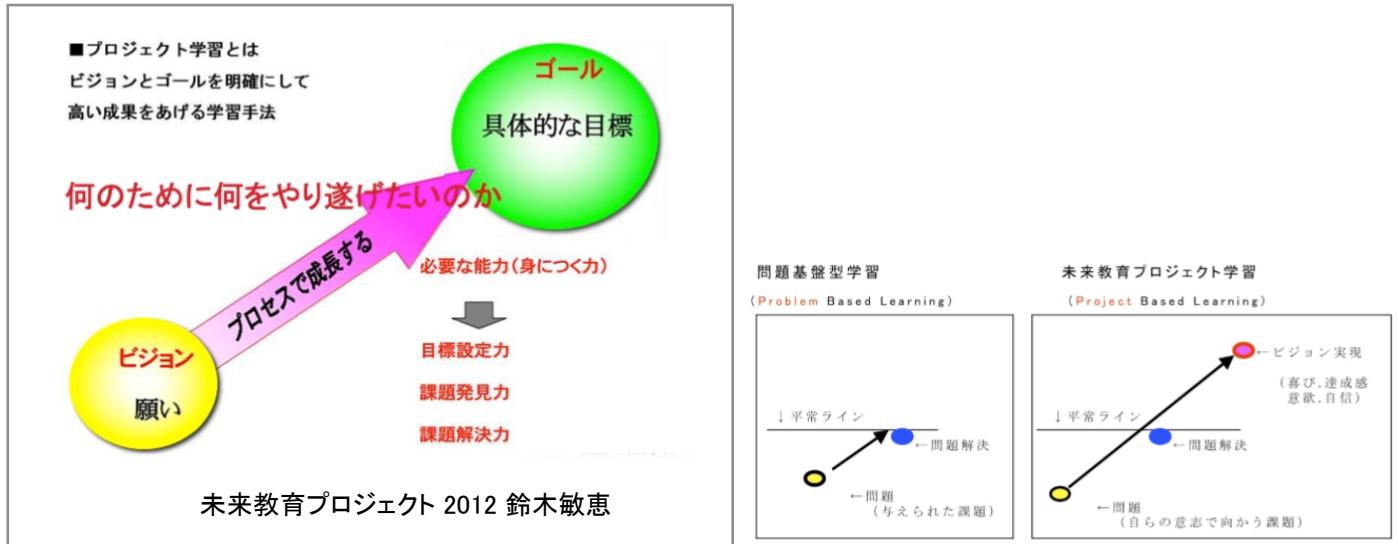
実践：埼玉県立常盤高等学校（文部科学省「スーパー・プロジェクト学習・ハイスクール（SPH）」事業平成26~30年度研究指定校）ほか / 構想・指導：鈴木敏恵

■ 実践したプロジェクト学習・ポートフォリオが詳細に記載されている文献など



プロジェクト学習の基本

「プロジェクト」とはビジョンや使命感に基づき、ある目的を果たすための構想や計画などをさします。「プロジェクト」とは目標を決めそこへの到達方法を考え出すものであり、それは価値ある何か（成果）を目に見えるものにすることもあります。ビジョン「何のために」とゴール「何をやり遂げたいのか」を明確にし常に意識しながら向かいます。プロジェクト学習は、意志ある学びをかなえる新しい教育のプラットフォームとして教育界、医療界、自治体などの課題解決力の人材育成や目標実現の手法として広く実践されています。

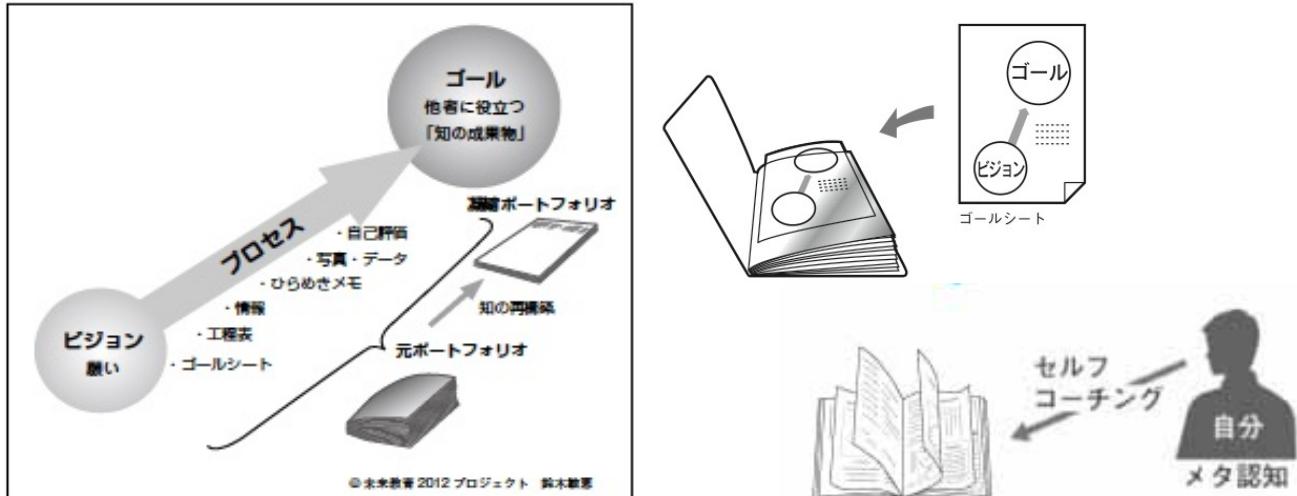


プロジェクト学習とポートフォリオの関係

☆自分で自分を成長させるポートフォリオの存在

ポートフォリオは、ゴールに向かうプロセスで得られた情報やひらめいたアイディアやメモなどを一元化したものです。ポートフォリオには最初のページに目標を書いた「ゴールシート」を入れ、その続きから時系列に中身を入れていきますので、それをめくることで目標へ向かい、思考プロセスを追うことができます。根拠あるリフレクションで成長することを叶えます。

抜粋『プロジェクト学習の基本と手法』教育出版／著:鈴木敏恵



出典『AI時代の教育と評価』
著者:鈴木敏恵／出版:教育出版

学生が一年目に実施するプロジェクト学習

モデル③：健康・生活

『ヘルスプロモーション／自分の健康を守ろう！』プロジェクト

概要（コンセプト）

背景：高齢社会、医療費の増大、生活習慣病への懸念、予防医療への流れ、社会はヘルスプロモーション、セルフメディケーションと一人ひとりが健康においても自立、自律を求める方向にあります。この姿勢が身につくために学校教育で栄養や身体について学びます。ネットで食事について調べてみるなどの活動もあります。教科書のページの最後には、ここで学んだことを活かしてみましょうと書いてありますが、ここで得た「知識」と「現実」を結びつけ自分ごととして発展させるまではなかなかできません。ここにプロジェクト学習を導入します。

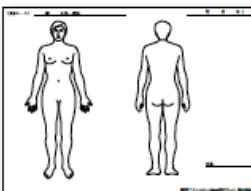
自分の健康や生活を客観的に見て観察し食事や睡眠など生活から「課題発見」します。健康を維持、増進する、ビジョン（目的）とゴール（目標）を決めます。情報を手に入れ、現実と立ち向かいながら目標に向かいます。生活改善の工夫など具体的な提案をします。

Point 「身体」という現実

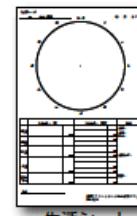
AIは「知能」、人間は知能+「身体」。身体は私たちの最も身近な「現実」であり自然です。よい船頭は、船（身体）を日々大切にして目的に向かいます。

Point 「身体シート」「生活シート」で自分を客観的に見る

【食事】— 摂り方、栄養バランスなど 【活動】— フィットネス、運動量
【休息】— 寝付き、夜更かし、休日の使い方などを、客観的、客観的に見ることで、その変化、推移、原因と結果など、課題発見や解決につながります。



身体シート



生活シート

Point エビデンスのもとに「課題の要因」を考える

体重が増えているのは、食事の量そのものが多い、炭水化物を摂り過ぎている、油分と糖分が顕著に多い菓子を夜に食べているなど、課題の要因は根拠あるデータから見出します。

Point 自立・自律・自尊感情

自分を客観的に見る。ここに「健康ポートフォリオ」を活かします。人は見続けるものへ愛着や愛情を深め大切にしたいという気持ちが湧き上がるものです。自分で自分の健康を維持増進するヘルスプロモーションは自尊感情を育てることもあります。

健康であることは目的ではなく、未来へ夢や願いを実現するための大切な手段とも言えます。

※シートは、<http://www.suzuki-toshie.net/> よりダウンロードできます。

●社会的背景（課題）

- 高齢社会
- 予防医療
- 生活習慣病
- 医療費増大
- 在宅医療
- 仕事と治療の両立
- 地域包括ケア
- 地域医療
- ヘルスコーチ

●身につく力

- 生きる力
- 自立・自律
- セルフマネージメント
- メタ認知
- 自尊感情
- 科学的思考

●関連教科

科学 家庭科 保健体育 ほか

ヘルスプロモーションとは「人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善することができるようとするプロセス」（WHO（世界保健機関）が1986年のオタワ憲章において提唱した新しい健康観に基づく21世紀の健康戦略）

セルフメディケーションとは「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当すること（WHO定義）」

フェーズ	活動	ポートフォリオ中身
準備	<p>●【課題発見】現実・状況を見る 「現状」を見るために「健康ポートフォリオ」で食事、睡眠、運動などを入れる、「生活シート」「身体シート」を使う。 「現状」と「ありたい状態」を照らし合わせることで「課題」が見えてくる…「食事内容に偏りがある」「スマホ長時間（瞬き少ない）」「何にでもマヨネーズ！」「睡眠が浅い」など課題が見えてくる。</p>	<input type="checkbox"/> 食事内容の写真 <input type="checkbox"/> 生活シート <input type="checkbox"/> 身体シート <input type="checkbox"/> 健康情報 <input type="checkbox"/> 課題発見シート
ビジョン・ゴール	<p>目的：自ら健康を維持増進できるために 目標：ヘルスプロモーション提案集を作る！ (一人ひとりの目標は、「冷え性の改善」「花粉アレルギーの低減」など自分の課題にあったものとなる。)</p>	<input type="checkbox"/> ゴールシート
計画	<p>「実際にやってみる期間（その結果の変化など）」を盛り込んで計画する</p>	
情報・解決策制作	<p>●【情報獲得】事実を得るための行動 各自が自分の解決すべき目標へ向かい、具体的な情報やデータを手に入れる。改めて、現実にどんな課題があるのか、課題を解決しないとどのようなリスクが想定されるのかを話し合う。</p> <p>●【課題解決】現実へ具体的な提案 「行動（今週食べたものなど）」と「結果（体重増加）」を照らし合わせてみる。 ポートフォリオを前のページと今週の摂取した食べ物、飲み物の写真と内容のリストとめくりながら両方を照らし合わせるように見る。</p> <p>●セルフコントロールできる自分をもつ 考えるとはー分析、分類、関係、関連、相違などを頭の中ですること。 自分の健康ポートフォリオをめくりながら考えます。「そうだ、総カロリーを抑えるために、おやつを変えよう。ドーナツは250カロリーで油過多。大福でカロリーを抑えて…」という具合に、科学的根拠で上手な選択ができる。 生活や食事のどこを変えればより健康を維持できるのかを自ら確信を持ってセルフコントロールできる。</p>	<input type="checkbox"/> 食生活の記録 <p>（食事の写真記録、栄養分析、カロリー表）</p> <input type="checkbox"/> 間食、飲料容量、成分など <input type="checkbox"/> 体調の記録（排便、水分、食事） <input type="checkbox"/> 睡眠関係…寝具の種類、ベッドの高さ、幅、サイズ、寝衣の生地など
プレゼン再構築	<p>生活改善、地域の社会資源の活用など具体的な提案する。</p>	
成長	<p>学生「エビデンスの大切さを知った。自ら教科書や書籍を丁寧に読み、必要な情報を得ようとするようになった。自信が出て積極的な行動ができるようになった。」</p>	

- チームを作り取り組むプロジェクト学習とすることも有効です。ただしその際、提案が抽象的にならないよう注意します。R10シート（→ p97「アクティビティーン7」）を活かし、いつ、どこで、何を、どんな周期で、どのように…など具体的、現実的にします。
- 地域の社会資源を活かす－公園、散歩コース、健康センター、医療機関などを上手に活かしながら、生涯を通じて遊び続け楽しみながら継続できることを大事にします。
- 「大切な人の健康を守ろう！プロジェクト」として家族など、生活を観察できる「一人」に注目して展開することも、人間ならではの思いやりや他者を理解し学べることから、価値ある成長を望めます。参考書籍「アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する」著：鈴木敏恵（医学書院）p110。

資料：文部科学省 SPH（スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール）採択事業「埼玉県立常盤高等学校」2014～2018実践。教育アドバイザー：鈴木敏恵